

授業科目 救急医学演習

【担当教員名】 日本赤十字社 新潟県支部 救急法指導員	対象学年 3・4	対象学科 理学・作業・言語・栄養・社会
	開講時期 前期	必修・選択 選択
	単位数 1	時間数 15時間

<概要>

誰もが事故を防止し、緊急時に必要な救助や手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につけ、人間愛に基づいてこれを行う。また習得した知識と技術を、日常生活において自他共にそれを実践し、安全で健康的な生活を築くため活用する。

<学習目標>

1. 赤十字救急法の基本的な知識を手順に基づき理解する。
2. 心肺蘇生法の内容と重要性を理解する。
3. 外傷に対する適切な手当を理解する。
4. 保護ガーゼ、包帯の目的を理解する。
5. 骨折などに対する適切な手当を理解する。
6. 日常生活の中で、緊急度や頻度の高い病気の症状に対する応急手当を理解する。
7. 搬送は傷病の手当と同様に重要であることを理解する。
8. 災害救護について理解し、積極的に防災ボランティアへの参加を理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO
		番号 学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	赤十字救急法について 手当の基本(観察、体位、保温、体位の変換)	講義・実技
2	心肺蘇生法 実技と手順(観察、意識の確認、協力者、気道確保、呼吸の確認、人工呼吸、循環サインの確認 心臓マッサージ、AED、組み合わせ、胃の膨らみ、異物の除去)	講義・実技
3	きずと止血 正しい方法と確実な止血(患部の挙上、直接圧迫止血、間接圧迫止血など)	講義・実技
4	包帯 基本的な実技(保護ガーゼ、三角巾包帯10項目)	講義・実技
5	骨折・脱臼・捻挫など 骨折の症状の理解と固定法実技	講義・実技
6	急病 病気の症状の理解と応急手当	講義・実技
7	搬送 搬送の重要性の理解と基本的な実技	講義・実技
8	救護 救急法で身につけた基本的な実技の総合的な活用 ※講義日程は、厚生標掲示板、電子掲示板を確認してください。 前期履修登録時期に、日程希望調査をとります。実習等の日程を確認して希望を出してください。第1希望にならない可能性もありますので注意してください。	講義・実技

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	救急法講習教本(非売品)			
参考書				
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
赤十字救急法救急員養成講習検定 学科80点以上 実技合格・出席率100% 受講証・認定証交付 本学の評価は、学科試験60点以上・実技合格	本科目は、日本赤十字社の資格認定講座「救急員養成講習」となりカリキュラムは15時間となっているが実際は28時間相当の授業が必要です。 その他、1人当たり教材・資料費として3000円が必要です。